

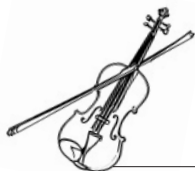
紀尾井 だより

Kiei News

11/12

November / December
2025

Vol.174



紀尾井ホール室内管弦楽団特別演奏会

ニューイヤークンサート2026

篠崎史紀・今藤長龍郎

世代もジャンルも超えて「共振・共鳴」する音楽会

連載

「邦楽を楽しもう！」

邦楽のレシビ『琵琶』（薩摩琵琶）

楽器編4

「クラシック音楽のテーマに基づく3話」

ウィーン・フィルの

ニューイヤークンサートをめぐる3つの話



日本製鉄 紀尾井ホール



日鉄ソリューションズ プレゼンツ

© ヒタキトモ

紀尾井ホール室内管弦楽団 特別演奏会 KCO名曲スペシャル

ニューイヤー・コンサート2026

2023年からの毎年のお楽しみ、KCOのニューイヤー・コンサート。今年は君津市民文化ホールとサントリーホールに会場を移しての公演となります。指揮はもちろん、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団（ウィーン・フィル）の顔ともいべき名コンサートマスターで、KCOの名誉指揮者を務めるライナー・ホーネックです。

1961年にオーストリア西端の町ネンツィングに生まれたホーネックは、少年時代にウィーンへ移り、同地で成長してウィーン国立音楽大学に学んだ、「音楽の都」、「ワルツの都」の伝統を肌で知る音楽家です。

シュテーターガイガーの伝統

「ワルツ王」ヨハン・シュトラウス2世は、指揮台に上がるときにヴァイオリンを携え、自ら奏でながら指揮をするスタイル（ドイツ語ではSergeier、シュテーターガイガーといいます）で人氣を集めました。

ヴァイオリンを得意とする指揮者が少ないなかで、シュテーターガイガーのスタイルを再現してくれる貴重な存在が、ライナー・ホーネックなのです。

ウィーン・フィルのニューイヤー・コンサートの歴史のなかでは、コンサートマスターとしてホーネックの大先輩にあたるヴィリー・ボスコフスキーが、1955年から79年までの25年間にわたり、シュテーターガイガーのスタイルで指揮をしたことで有名です。ホーネックがウィーン国立歌劇場管弦楽団とウィーン・フィルのエキストラとして演奏しはじめたのは1979年のことですが、もうその年のニューイヤー・コンサートは終わっていました。そのため、わずかな差でボスコフスキーの指揮で演奏する機会を逸したそうです。

しかし聴衆としては1971年、9歳のときにムジークフェラインザールの立見席で、ボスコフスキー指揮のニューイヤー・コンサートを聴くことができました。ボスコフスキーが実際にヴァイオリンを弾くところは多くないので、今か今かと心待ちにしながら聴いていたそうです。

はじめは第1ヴァイオリン奏者、次いでコンサートマスターになって、マゼール、カラヤン、カルロス・クライバーなど、綺羅星のごとく並ぶスター指揮者たちのもとでニューイヤー・コンサートを演奏してきたホーネックにとって、ボスコフスキーの

自然でエレガントな演奏は、忘れられないものだそうです。

大先輩の演奏を無二の思い出に、ウィーン育ちの音楽家ならではのワルツやポルカを、シュテューガイガースタイルで聴かせてくれるのが、KCOのニューイヤー・コンサートなのです。

曲目について

2026年のニューイヤー・コンサートは、ミンクス作曲、ランチベリー編曲のバレエ《ドン・キホーテ》からの曲で始まります。一見するとウィーンに関係なさそうですが、作曲家ミンクスはオーストリア帝国出身で、ウィーンで亡くなりました。また《ドン・キホーテ》はモスクワで初演された作品ですが、イギリスの作曲家ランチベリーによる編曲版は、1966年にウィーン国立歌劇場のバレエ団が名バレエ・ダンサー、ヌレエフの振付で初演したものですから、実はウィーンにゆかりのある曲なのです。

続いては、モーツァルトのヴァイオリン協奏曲第3番。KCOのニューイヤー・コンサートでは、ホーネックによるモーツァルトのヴァイオリン協奏曲の弾き振りが恒例と

なっています。第3番は、第5番とともに充実した内容を持つ作品だけに期待できます。

KCOのコンサートマスターとしておなじみの千々岩英一と玉井葉採が、その美しさは格別、と口々に語るホーネックの演奏とストラディヴァリウスの音色を、たっぷり楽しめるでしょう。

そのあとのホイベルガーの喜歌劇《オペラ舞踏会》序曲は、ウィнна・ワルツやポルカのプログラムの始まりを告げるのにふさわしい、ワクワクさせる曲。

続いて、弟ヨーゼフと兄ヨハンのシュトラウス一家のおなじみの名曲が演奏されたあとは、チャイコフスキーのバレエ《白鳥の湖》から。これも《ドン・キホーテ》と同様に、ヌレエフが1964年にウィーン国立歌劇場で振付を担当したことで有名な作品です。今年のホーネックによる選曲は、ヌレエフが隠しテーマなのかも。

その次の《ベオビル》は珍しい曲です。《スケターズ・ワルツ》で知られ、「フランスのヨハン・シュトラウス」などと呼ばれるワルトトイフェルが作曲したこの曲は、シュトラウス兄弟の《ピツィカート・ポルカ》と同じく、弦を指で弾くピツィカート奏法だけで

演奏されます。「フレンチ・ピツィカート・ポルカ」というところでしょうか。

おしまいは、父ヨハンのギャロップに続いて、その四男、つまりヨハンとヨーゼフの弟エドゥアルトの《ウィーンよ、全てのものの上にあれ！》。排他的な国粋主義は困るけれど、故郷を愛する心は、どこの国の町も村も山も海も同じです。ウィーンの音楽家たちのほほえましいお国自慢を、素直に楽しみたいしょう。

文／山崎浩太郎（音楽評論家／演奏史譚）

日鉄ソリューションズ プレゼンツ
KCO名曲スペシャル

ニューイヤー・コンサート 2026

2026

1/24

15:00

君津公演

会場：君津市民文化ホール

2026

1/25

14:00

東京公演

会場：サントリーホール



ライナー・ホーネック

公演詳細はP.10をご覧ください。

協賛：日鉄ソリューションズ株式会社



熊本・福岡

ヴァイオリン

三味線

篠崎史紀・今藤長龍郎 世代もジャンルも超えて 「共振・共鳴」する音楽会

篠崎 でも、減衰していく楽器ってかっこいいなと思いますよ。

今藤 逆に、マロさん(篠崎さん)の演奏を聴いていて感じたのですが、持続する音を「線」とすると、その「線」の中にちゃんと「点」があるんですよ。持続しながら「点」を作っていくのは難しいんじゃないかと思うのですが。

篠崎 そうですね、簡単に言えば自分の音を聴くこと。音をよく聴いていけば、理想に近づくことができると思っています。

—— そもそも、お二人が楽器を始めたきっかけは？

今藤 伝統芸能という、代々の家系で：と思われがちですが、母は藤舎流笛方家元の家系ですが、父はサラリーマンでした。父は、サラリーマン時代に趣味で始めた長唄で「今藤尚之」の名を許されて、プロに転身したんです。それもあってか、父からは一度も「やれ」とも「やるな」とも言われたことはありません。幼少期は音楽教室でピアノを習っていたくらいです。母も家元家系ではありませんでしたが、本人はまったく演奏しませんでした。父が出演する歌舞伎の舞台はよく観に行っていて、小学校5年生の時に「自分も三味線を弾いてみたい」と思ったのが

2026年2月に「響きあう和と洋」シリーズの九州公演を開催します。2017年に紀尾井午後の音楽会花鳥風月 其の貳「花」で共演された、ヴァイオリンの篠崎史紀さんと、長唄三味線方の今藤長龍郎さんが再び共演する本公演について、お二人にお話を伺いました。

—— 2017年の初共演時の印象はいかがでしたか？

篠崎 ヴァイオリンと三味線は、普段演奏する音楽ジャンルは違っても「音楽」という根っこは一緒で、そこは何の違いもないので

すが、音が減衰していく楽器(三味線)と持続する楽器(ヴァイオリン)が一緒に奏でる、というところが非常に興味深かったし、そこが一番面白かったですね。

今藤 そうですね、私は音が減衰していく楽器を使いますが、いかに音を伸ばすかを意識しているんです。三味線は弦を撥で弾いた瞬間から音は消えていくけれども、その音をどれだけ伸ばせるか。私の師匠の今藤綾子先生は、そういう音をさらっと出せたのです。本当に尊敬していますし、自分はまだまだ修行が必要だなと感じます。

始まりで、今にいたります。

篠崎

私は、いつどうやって始めたのか、やりたいかやりたくないかを考えたかどうかも覚えていません。両親が音楽教室をやっていたので、音楽は生活の一部であって、当たり前にあるものでした。私にとってヴァイオリンを弾くことは、歯を磨くのと同じくらい、生活に欠かせないものなんです。私も両親からやれとか、やるなとか一切言われたことはないですね。ただ一つ、ずっと言われていたのは「楽器が弾けると世界中の人とお友達になれるよ」。本当にそのとおりですよ。ヨーロッパ留学中に分かったことは、言葉が通じなくても音楽で交流できる。人種や宗教の壁があっても、音楽でなら通じ合えるんです。

——再共演となる熊本民謡「ヨヘホ節」「五木の子守唄」によるラプソディーについてお聞かせください。



篠崎史紀



今藤長龍郎

篠崎

「ヨヘホ節」や「五木の子守唄」を聴いたことがない方も、どこか懐かしさを感じるはずです。日本人のDNAに刻まれたものなのでしょうね。聴くと、心地よいなと思える曲です。

今藤

前回はマロさんと二人で演奏したのですが、熊本市民会館での公演は、箏、十七絃、合唱が入った大きな編成にバージョンアップしますから、また違った印象になると思うので楽しみにしてください。響ホール（北九州市）公演は二人での演奏になりますが、譜面を拝見しましたら、前回よりもブラッシュアップされていて、さらに進化した作品をお届けできると思います。

最後に、演奏会に向けて一言お願いします。

篠崎

この公演は「共振・共鳴」が大きなテーマになっていると思います。響ホール公演には「共鳴する音楽会」という素晴らしい

タイトルがついていますが、まさに楽器と楽器が共鳴し、楽器と人が、人と人の心が共鳴する、そんな演奏会になればと思います。出演者もベテランから中学生（ピアノの鈴木れあ）までいますから、現在から未来へつなぐ、というテーマも隠れています。

今藤

それに、西洋音楽と邦楽と一緒に演奏する音楽会って、あまりないですよ。それは人が勝手にジャンル分けしてしまっているからですが、ジャンルを超えて一つの音楽として「共振共鳴」する現象がホール全体に起きる。その体験を、ぜひ幅広い世代の方に味わっていただきたいですね。

取材・構成／紀尾井だより編集部

撮影／武藤章



2017年4月の共演を
動画で視聴できます。



2026
2/7
⊕
14:00

邦楽新鋭展
meets
紀尾井午後の音楽会

会場：市民会館シアーズホーム
夢ホール（熊本市民会館）

2026
2/8
⊕
14:00

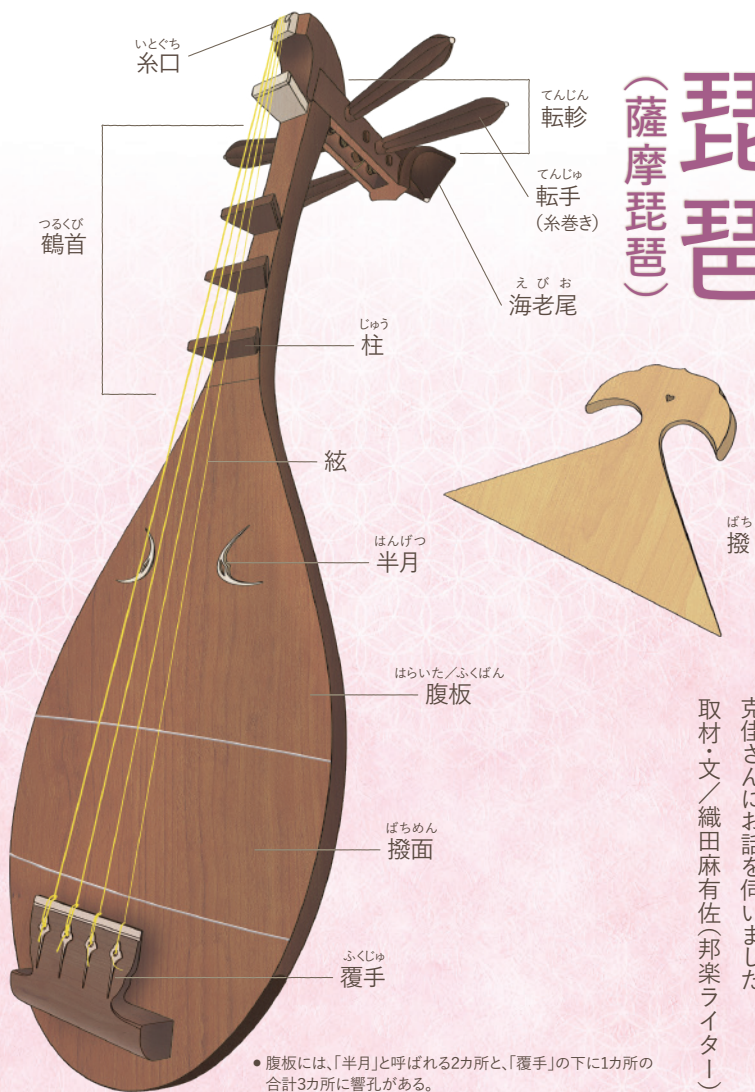
共鳴する音楽会
東西の伝統が音楽で響き合う

会場：北九州市立響ホール

詳細はP.10をご覧ください。

琵琶

(薩摩琵琶)



● 腹板には、「半月」と呼ばれる2カ所と、「覆手」の下に1カ所の合計3カ所に響孔がある。

近代琵琶のひとつ薩摩琵琶は、柔らかなフォルムから紡ぎ出される勇壮な響きが魅力です。その薩摩琵琶について、琵琶製作者の「石田琵琶店」五代目・石田克佳さんにお話を伺いました。

取材・文／織田麻有佐（邦楽ライター）

1 “年代の音”が魅力

木の成長に長い年月がかかり、切り出しから完成までさらに多くの時間と経費を要する琵琶の製作。消耗品の三味線とは異なり、年代物の琵琶も現役で使われています。「明治時代の琵琶は枯れたような素朴な音色で、それはそれで趣があります。新しい琵琶の新しい音が、良い振動を与えることによって、まろやかに熟成していきます。楽器が成長していくその過程が楽しいです。琵琶は製作年代、使用年数によって異なる音色が魅力といえます」

2 樹齢100年の桑と200年の柘植^{つげ}

薩摩琵琶の素材は、腹板^{はらいた}（表板）と胴^{そうくわ}（裏板）の両方に硬くて重い桑の木を使った「総桑」が最高とされていますが、腹板が桑で、胴が櫟^{けやき}のものもあります。現在使用されている桑の木は、伊豆諸島にある御蔵島の樹齢およそ100年のもの。ひび割れを防ぐために、根がついた状態で掘り出されます。崖の下に生えていることが多く、ワイヤーを巻いて急斜面を機械で引き上げて、海上輸送で製材場へ運びます。それを板状に加工したのち、約10年間自然乾燥させます。丸太を選ぶ際、表面の皮の状態を見ますが、製材してみると虫食いの穴や腐食していることがあるため、目利きが重要となります。

打楽器のように打ちつける奏法で用いる撥は、イチョウの葉のような形でとても大きいです。硬い柘植材が最高の素材とされています。柘植の成長は遅く、撥に使えるようになるには樹齢200年ほどかかるそうです。

3 胴のくり具合が決め手

胴本体は、テニスのラケットのような型に沿って木材を切り出し、ノミと金槌で内側をくり貫きます。そして、蒸気で蒸して丸みを出した腹板^{なかむ}を膠で接着します。音色を左右する重要な工程のひとつが、この胴のくり加減です。くり具合は均一ではなく、木の材質によっても調整が必要のため、職人の経験が問われるのもっとも神経を使う作業です。

転手^{てんじゅ}（糸巻き）、柱^{じゅう}、覆手^{ふくじゅ}などの各部の作業は細かく、高い精度と繊細さが要求されます。琵琶独特のサワリは、柱を本体に接着したのちにノミで微調整。仕上げに漆が塗られることもあります。基本的には植物性の蠟を塗って艶を出します。

4 オーダーメイド！

琵琶は注文を受けてから製作されます。楽器の大きさはおおよそ決まっていますが、演奏者の要望によって微妙に異なります。「ほかの楽器とセッションするなど、演奏スタイルに合わせ、音が大きくなるように、あるいは低音が豊かに響くように」といった要望にもお応えします。海外で演奏する場合、飛行機の機内に持ち込めるように頸^{くび}を着脱式にしたり、象牙を使用していると没収される可能性があるため、代わりに黒檀を使用したりすることもあります。お客さまの要望に応じて、その方に最適な楽器を提供することが職人として大切だと思っています」



石田琵琶店

明治11年創業、材料の調達から仕上げまですべて自社で行う。ほぼ1軒となっていた琵琶専門店。石田克佳氏は、文化庁選定保存技術保持者の父・四世石田不織氏とその技術を継承、各種琵琶を製作。克佳氏は、薩摩琵琶奏者としても活動する。

東京都港区虎ノ門3-8-4

TEL : 03-3431-6548

<https://ishidabiwaten.com>

ウィーン・フィルの ニューイヤー・コンサートをめぐる

3つの話

ウィーン伝統のニューイヤー・コンサートの知られざるエピソードを3つご紹介しましょう。

1 暗い起源

「1939年夏、ザルツブルク音楽祭でシュトラウス一族の曲で演奏会を行ったら、思いのほか評判が良かったので、同年の大晦日に同じ公演をウィーンでやって見たのははじまりだった。ウィーンではワルツやポルカを演奏会の形で演奏する習慣がなかったで、最初はチケットが思うように売れず、心配になって団員が自ら手売りしていたのを覚えている。でも戦争で娯楽が少なかった時代だったから徐々に評判になって、1941年の第2回以降、新年に欠かせない公演として定着していった」(第1回ニューイヤー・コンサートのコンサートマスターを務めた故ワルター・バリリ談)

ウィーン・フィルのニューイヤー・コンサートは、1938年にオーストリアがナチス・ドイツに併合された直後、ナチスの宣伝大臣だったヨーゼフ・ゲッペルの命で開催されたプロバガンダ公演に端を発します。このとき、シュトラウス家がメンデルスゾーンやマーラーと同じユダヤ系であるという報告を受けたゲッペルスが「ドイツの文化的な財産がなくなってしまう」のを危惧して、事実を公にするのを禁じたのは有名な話です。

シュトラウス1世の祖父は1750年ごろにウィーンに移住してきたハンガリー系ユダヤ人で、結婚を機にキリスト教に改宗していますが、ナチスは教会の結婚記録書の「洗礼を受けたユダヤ人」という記載を削除して、「アーリア人」にしてしまいました。ただ、彼の息子が営んでいた居酒屋は1905

年ごろまで「ユダヤ人の居酒屋」と呼ばれていて、店があったのもユダヤ人街がある地区だったので、ウィーンでは誰もが本当のことを知っていたようです。

バリリ氏の証言にあるように、当初は年末に開催されたコンサートが定期的に元旦に開催されるようになったのは1941年からです。ニューイヤー・コンサートの生みの親で、終戦後、連合軍に2年間の活動禁止を命じられた時期を除いて、亡くなるまで毎年指揮台に立ったのが、生粋のウィーン子だったクレメンス・クラウス(1893年-1954年)でした。

2

国立歌劇場VS フォルクスオーパー

ウィーン国立歌劇場で上演されるシュトラウスの作品は、いまだに喜歌劇「こうもり」だけです。彼は生涯15曲の舞台作品を書いていますが、すべてオペレッタであることがその理由です。近年はオペレッタを上演するオペラ・ハウスも増えてきましたが、ウィーンでは昔から、オペレッタは当初演劇用に建設された劇場だったフォルクス・オーパー(大衆オペラ座)で上演されるもの



修復工事前の戦後のウィーン楽友協会大ホールにて。ウィーン・フィルを指揮するクレメンス・クラウス。コンサートマスターはワルター・バリリ。(個人蔵)

という不文律があります。台詞が多く、高い演技力が求められるオペレッタはドイツ語が不得手な有名歌手が使えないというのが最大の理由なのですが、国立歌劇場管弦楽団が母体のウィーン・フィルは、必然的にオペレッタの演奏経験が少なくなりま

す。そのため、ウィーンでは『フォルクスオーパー管弦楽団のほう』が、『ウィーンらしいシュトラウス』の響きがする」という意地悪な声もちらほら。

何をもって「ウィーンらしい」とするかはさておき、演奏会で我々が耳にするシュトラウスの音楽は、ほぼ例外なく後世の人間が書いた「編曲」です。シュトラウスの直筆譜は弟のエドゥアルトによって大部分が焼却されてしまったため、「原典譜」と呼べるものがありません。そもそもシュトラ

ウス楽団の譜面は、手配できた演奏家の人数、会場、依頼主の趣向等々にあわせて、その都度シュトラウス本人や側近によって大幅に手加えられていたので、「オリジナル」なのはメロディーだけということになります。ポピュラー音楽と同じです。

3 『ラデツキー行進曲』で人命救助

ウィーン・フィルのニューイヤー・コンサートを締めくくる最後の曲としてあまりにも有名な『ラデツキー行進曲』。手拍子をする客席と舞台が一体になって、大団円を迎えるのが定番になっています。ウィーン子の郷土愛をかきたてる音楽です。1848年の市民革命で保守派を鼓舞するためにシュトラウス1世が書いた曲ですが、彼の作品は今日この一曲を除いてほとんど演奏されなくなってしまうました。三人の息子をスターに育てあげて、家庭を捨てて愛人の元に走った夫を「ひねり潰した」妻アンナの興業手腕の賜物ともいえます。

父と同名同名のシュトラウス2世は、このときの革命で若い学生を中心とした改革派を支持して、『革命行進曲』『学生行進曲』

『自由の歌』といった作品を書いているのですが、これが仇となって宮廷に睨まれてしまい、父親が務めていた宮廷舞踏会音楽監督の役職になかなか就任できませんでした。さて、もともと軍事パレード用に書かれた『ラデツキー行進曲』ですが、現代では人命救助に一役買っています。オーストリア赤十字では、心臓マッサージを行う際にビー・ジョーズの『Staying alive』か『ラデツキー行進曲』をイメージしながらリズムを保つことを推奨しています。

心臓マッサージは1分間に100回程度のペースで行うのが適切とされていて、丁度良いのだそうです。ちなみに日本の救急訓練では、『アンパンマンのマーチ』が流れることが多いようです。

文／岡本和子
(オーストリア文化史研究・通訳・翻訳家)

2026
1/24
⊕
15:00

2026
1/25
⊕
14:00

日鉄ソリューションズプレゼンツ
KCO名曲スペシャル
ニューイヤー・コンサート2026
会場：1/24 君津市民文化ホール
1/25 サントリーホール

詳しくはP.2・3でご紹介しています。あわせてご覧ください。

主催公演情報

11/21(金) 11/22(土)
19:00 14:00

紀尾井ホール室内管弦楽団 第145回 定期演奏会

[東京オペラシティコンサートホール]

巨匠ラルが熱く“推す”英国の俊英ウォードと贈るブラームスの交響曲第1番、ヴァイオリン界を牽引するムローヴァが初披露するベルク。

- ▶ **ダンカン・ウォード** (指揮)、**ヴィクトリア・ムローヴァ** (ヴァイオリン)
▶ **ブリテン** : 歌劇《ピーター・グラ임ズ》～4つの海の間奏曲
ベルク : ヴァイオリン協奏曲
ブラームス : 交響曲第1番ハ短調

¥ S席 ¥8,800 A席 ¥7,800 B席 ¥5,800 C席 ¥4,000
U26 A席 ¥2,000 U26 B席 ¥1,500



ダンカン・ウォード



ヴィクトリア・ムローヴァ

日鉄ソリューションズ プレゼンツ

KCO名曲スペシャル ニューイヤー・コンサート 2026

協賛: 日鉄ソリューションズ株式会社

ウィーン・フィルのコンサート・マスターで、KCO名誉指揮者のホーネックの指揮とヴァイオリンで、ウィーンが香る華やかに新年を迎えます。

2026
1/24(土)
15:00

[君津市民文化ホール]

2026
1/25(日)
14:00

[サントリーホール]

¥ S席 ¥5,000 A席 ¥3,000 学生A席 ¥1,500

主催: (公財)日本製鉄文化財団
日本製鉄(株) 東日本製鉄所
共催: (公財)君津市文化振興財団

¥ プラチナ席 ¥12,000 S席 ¥8,000
A席 ¥6,500 B席 ¥5,000 U26 A席 ¥2,000

主催: (公財)日本製鉄文化財団
《こども》招待 対象公演
文化庁 劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業



ライナー・ホーネック

- ▶ **ライナー・ホーネック** (指揮・ヴァイオリン)、きみつ少年少女合唱団(1/24のみ)、紀尾井ホール室内管弦楽団
▶ **モーツァルト** : ヴァイオリン協奏曲第3番ト長調
チャイコフスキー : バレエ《白鳥の湖》から
シュトラウス一家のウィナーワルツ、ポルカ ほか

2026
2/7(土)
14:00

邦楽新鋭展 meets 紀尾井午後の音楽会 [市民会館シアーズホーム夢ホール(熊本市市民会館)]

P.4・5で詳しくご紹介しています

長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクール優勝者がベテラン勢と共演。篠崎史紀と今藤長龍郎とのコラボレーションでは熊本在住の箏曲家らが参加して一緒に盛り上げます。

- ▶ **杵屋巳三郎** (唄)、**今藤長龍郎** (三味線)、望月太津之 (囃子)、野村峰山 (尺八)、藤本昭子 (三絃)
篠崎史紀 (ヴァイオリン)、**鈴木あ** (ピアノ)、中嶋ひかる、清原 晏、中島裕康、吉越大誠 (箏)、熊本箏演奏者協会 ほか
¥ 一般 ¥3,000 [U25] ¥1,000

主催: くまもと大邦楽祭実行委員会、(公財)日本製鉄文化財団 協力: 日本製鉄(株)九州支店



篠崎史紀

2026
2/8(日)
14:00

共鳴する音楽会 ～東西の伝統が音楽で響き合う～ [北九州市立響ホール]

久留米市開催 賢順記念全国箏曲コンクール優勝者がベテラン勢と共演。全日本学生音楽コンクール九州大会の中学校の部で優勝した北九州出身の鈴木あが篠崎史紀と共演します。

- ▶ **杵屋巳三郎** (唄)、**今藤長龍郎** (三味線)、望月太津之 (囃子)、野村峰山 (尺八)、藤本昭子 (三絃)
篠崎史紀 (ヴァイオリン)、**鈴木あ** (ピアノ)、山下紗綾、鹿野竜靖、長谷由香、安嶋三保子 (箏) ほか
¥ 一般 ¥3,000 ベア ¥5,000 [U25] ¥1,000

主催: (公財)北九州市芸術文化振興財団、(公財)日本製鉄文化財団、日本製鉄(株)九州製鉄所 協力: 日本製鉄(株)九州支店



今藤長龍郎

- ▶ **長明** 越後獅子、宮城道雄「春の海」、中能島欣一「さらし幻想曲」、「尾上の松」、沢井忠夫「上弦の曲」、奥田祐「ヨホホ節」「五木の子守唄」によるラプソディー ほか

紀尾井サポートシステム会員（五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略）

- 《特別協賛会員》住友商事／日鉄ソリューションズ／三井不動産／三井物産／三菱商事／三菱地所
- 《みやび会員》伊藤忠商事／大島造船所／大林組／鹿島建設／商船三井／菅原／住友商事／日本郵船／丸紅／みずほ証券／三井住友銀行／三井住友信託銀行／三井不動産／三井物産／三菱商事／三菱地所／メタルワン ほか匿名2社
- 《ひびき会員》オカムラ／高砂熱学工業／竹中工務店／東京きらぼしフィナンシャルグループ／山下設計
- 《みどり会員》青鬼運送／赤坂維新號／今治造船／ヴォートル／エーケーディ／荏原冷熱システム／ザ・キャピトルホテル 東急／三協／清水建設／上智大学／住友倉庫／大成建設／千代田商事／テイスト・ライフ／東京ガーデンテラス紀尾井町／東芝ライテック／永田音響設計／ニュー・オータニ／ハウス食品グループ本社／パナソニック／三菱UFJ銀行／三菱UFJ信託銀行／三菱UFJモルガン・スタンレー証券／ミュージション／明治座舞台／ヤマハサウンドシステム／ワークショップ21
- 《あおい会員》青木陽介／浅沼雄二／浅見 恵／石崎智代／石田昌也／磯部治生／伊藤眞理子／上野真志／馬屋原貴行／江幡 淳／大内裕子／大垣尚司／大久保なほ子／太田清史／小川 保／小倉 ヒロ・ミハエル／角田実内愛／糟谷敏秀／片山國正／片山能輔／加藤巻恵／加藤優一／金井俊樹／神川典久／川口祥代／菊池恒雄／木谷 昭／楠野貞夫／栗山信子／河野紗紀／小坂部恵子／小林雅紀／斎藤公善／坂詰貴司／坂根和子／佐久間庸行／佐野千紘／佐部いく子／柴田雅美／清水 正／清水多美子／清水康子／白土英明／新角卓也／鈴木順一／鈴木 幸／鈴木 亮／高下謹彦／高杉哲夫／田中 進／田頭亜里／中尾武彦／中塚一雄／中西達郎／中村健司／中山昌樹／原田清朗／藤村行俊／北條哲也／堀川将史／牧本恵美子／松枝 力／松尾芳樹／真野美千代／丸井正樹／水口美輝／簗輪永世／宮島正次／宮田宜子／宮武悦子／宮原 薫／宮本信幸／ミューズ M／村上喜代次／村上敏子／茂手木優輝／矢田部靖子／山内寿美／山口 彰／山口 聡／横手 聡／吉田季光／渡邊一夫／渡辺由香里
- ほか匿名43名 計240口

（2025年10月1日現在）

特別支援会員（五十音順・「株式会社」等表記略）

- アステック入江／五十鈴／NSユニテッド海運／NSユニテッド内航海運／エヌエスリース／エヌテック／王子製鉄／大阪製鐵／九條工業／草野産業／黒崎播磨／合同製鐵／鴻池運輸／小松シヤリング／山九／産業振興／三晃金属工業／サンユウ／三洋海運／山陽特殊製鋼／ジオスター／新日本電工／スガテック／大同特殊鋼／大和製罐／高砂鐵工／高田工業所／鶴見鋼管／テツゲン／電機資材／東海鋼材工業／東邦シートフレーム／トピー工業／日亜鋼業／日鉄SGワイヤ／日鉄エンジニアリング／日鉄片倉鋼管／日鉄環境／日鉄ケミカル&マテリアル／日鉄建材／日鉄鋁業／日鉄工材／日鉄鋼板／日鉄興和不動産／日鉄神鋼シャーリング／日鉄スチール／日鉄ステンレス鋼管／日鉄精圧品／日鉄精密加工／日鉄ソリューションズ／日鉄テクノロジー／日鉄テックスエンジ／日鉄ドラム／日鉄物産／日鉄物流／日鉄プロセッシング／日鉄保険サービス／日鉄ボルテン／日鉄溶接工業／日鉄レールウェイトテクノス／日本金属／日本触媒／濱田重工／不動テトラ／幕張テクノガーデン／三島光産／宮崎精鋼／吉川工業／ワコースチール
- 日本製鉄

（2025年10月1日現在）

編集後記

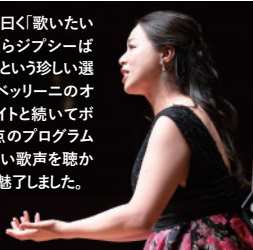
長い夏が終わり、日に日に秋が深まってきました。芸術の秋、皆さまはどのように楽しめますか？日本国内には音楽ホールが2000以上、美術館は1000以上あるそうです。散歩がてら、近所にある文化施設に足を運んでみてはいかがでしょうか。11月21日・22日には紀尾井ホール室内管弦楽団が東京オペラシティコンサートホールで皆さまをお待ちしております。

フォトレポート

6.26(木) 三菱地所 presents 紀尾井 明日への扉 第45回 山下裕賀(メゾソプラノ)

協賛：三菱地所株式会社

前半は本人曰く歌いたい曲を集めたらジブシーばかりに(笑)という珍しい選曲に、後半ベッリニのオペラハイライトと続いてボリューム満点のプログラムで、素晴らしい歌声を聴かせて客席を魅了しました。



© 武藤章

7.4(金)/5(土) 紀尾井ホール室内管弦楽団 第143回定期演奏会

特別協賛：三井不動産株式会社

協賛：住友商事株式会社 三井物産株式会社 三菱商事株式会社

休館前最後の定期演奏会はもちろん首席指揮者トレヴァー・ピノック。3年ぶりに帰ってきたアレクサンダー・ドヴガンを迎えてのベートーヴェンピアノ協奏曲第4番では骨太の演奏を披露しました。



© ヒダキトモコ

7.9(水) 井上八千代の会

上方の地唄舞、仕舞をたっぷり堪能する豪華な会となりました。児玉竜一とのトークも和やかに、ご自身のこれまでの歩みと、次世代への思いを語られました。



7.24(木) 三菱地所 presents 紀尾井 明日への扉 第46回 佐々木つくし(ヴァイオリン)

協賛：三菱地所株式会社

妖精のような可愛らしいその容姿とはうらはらに、しっかりと芯ののった音色で、この公演がリサイタルデビューとは思えないほど堂々とした演奏を聴かせてくれました。



© 堀田カヲ

日本製鉄 紀尾井ホール

公益財団法人 日本製鉄文化財団

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号

TEL. 03-5276-4500(代表) FAX. 03-5276-4527

主催公演の最新情報や
チケットのご予約はウェブサイトで
<https://kioihall.jp>

